

成立シ大連・天津・北京間ノ定期航空ヲ實施ス
附記 當時内地、滿洲間ノ航空ハ日本航空株式會社ノ營

任スル所ニシテ東京ヨリ大坂、福岡ヲ經テ京城ニ至リ
同地ヨリ二分シ大連又ハ奉天ニ至ル

第五篇 支變勃發當時ニ於ケル對支情勢判斷及對支作戦計畫

支變勃發當時歐米諸國ハ一般ニ靜觀的態度ヲ持セリ

蘇聯邦ハ其ノ内部抗争トハ「スカーリン」ニ反對セル國務次官一
名六月十二日銃殺外交官「カラハン」元帥以下大將級八
等ノ爲懲カニ我ニ挑戰スルガ如キコトナシト判斷セラレシ

然不安情態ヲ繼續シ六月三十日ノ乾岔子事件 蘇聯砲艦乾岔子
南側水道ニテ日

滿軍ヲ射撃シ我方軍之ニ應戰シテ砲艦一隻ヲノ如キ紛争惹起
擊破シ七月二日蘇軍ハ占領島嶼ノ撤退ヲ約ス

セリ而シテ乾岔子事件解決直後蘆溝橋事件勃發セリ

0633

85

事變勃發直
後ノ判斷

當時支那ニ於テハ第二編「支變ノ原因」ニ於テ述ベシ如ク抗日思想全國ニ瀰漫シ特ニ北支ニ於テ甚ダシク黨變政體ノ隸下ニ在ル第二十九軍ノ如キハ下級幹部以下ニ徹底的ニ抗日思想浸潤シアリ又支那中央部ニ於テハ蔣介石及其ノ側近要路者中ニ強烈ナル抗日思想ヲ懷キ對日一戰敢テ辭セズト爲ス者擧カラザル狀況ニ在リ

第一章 對支情勢判斷

第一節 事變初期ノ情勢判斷

昭和十二年七月七日夜蘆溝橋事件勃發シ支那軍我ニ挑戰スルノ報ニ接スルヤ七月八日我が中央統帥部ハ「一經ノ情勢上事件ノ擴大ヲ防止スルヲ要ス」ノ一般方針ヲ決セリ然ルニ翌九日ニ至ルモ支那軍ノ無統制ナル挑戰的行爲止マザルニ鑑ミ我が中央統帥部ハ「我ヨリ進ンテ事件ヲ擴大セザルモ彼ヨリ戰ヲ逃ムニ至ラバ之ヲ排撃ス」ノ方針ヲ採レリ俱シ此ノ場合ニ於テモ事件ヲ成ルベク平穩地方ニ限定スルニ勉ム

0634

支那駐屯
軍ノ兵力
増強ノ爲
ノ判断

ベキモノトセリ

支那駐屯軍司令官亦事件勃發當時ヨリ不擴大方針ヲ以テ極力
和平解決ニ努力セシガ十日ニ至ルモ支那軍ハ執拗ニ我方軍ニ
挑戦シ事態ノ推移スル所駐屯軍ハ優勢ナル支那軍ノ重圍ニ陥
ルノ危険ノ↑虞アルヲ以テ中央統帥部↑ハ兵力増強ニ懸シテ
ノ判断ヲ爲セリ

一 諸情報ヲ綜合スルニ冀察當局及南京政府ハ國民ノ抗日意識
ヲ煽揚スルト共ニ對日武力戦争ヲ準備シツツアリテ我方支
那駐屯軍ノ和平解決ノ努力ハ支那側ノ暴戾ナル挑戦的態度
ニ依リ酬イラレ事態ハ逐次悪化スルノ虞大ナリ
二 大規模ナル對支出兵ハ帝國ノ固ヨリ好ム所ニアラザルモ狀
況斯クノ如クニシテ機ヲ失センカ支那駐屯軍ノ自衛行動ハ
優勢ナル支那軍ノ重圍ニ陥リ遂ニ救フベカラザルニ至ル所
クテ帝國ノ威信ハ地ニ墜チ支那ヲシテ益々増長セシメ在留
帝國臣民ノ生命財産ハ暴虐ナル毒手ニ委スルニ至ルベシ故

0635

二 速カニ之ヲ救援スルト共ニ事敵ノ根元ヲ一掃スル爲必
ナル兵力ヲ先ツ北支方面ニ派遣スルヲ要ス

三 事態更ニ他方面ニ擴大スルハ之ヲ欲セザル所ナルモ支那全

般ノ抗日情勢ニ鑑ミ他方面ニ於ケル日支尖銳化ヲ來ス虞少

キニアラズ之ガ爲在支居留民ノ保護ニ關シテハ遺憾ナキヲ

期ス

四 以上ノ處置ヲ取ル場合ニ於テモ現下ノ國際情勢ハ歐米就中

蘇聯邦ノ参戰ヲ誘發スルノ虞甚ナシト判断セラル

右判断ニ據リ支那駐屯軍ニ左ノ如ク兵力増派ヲ決定ス

一 關東軍ヨリ一部獨立混成第一、第十一旅團、關東軍飛行集

團ノ一部(傳電、戰團、重機連(中隊)其ノ他)

二 朝鮮軍ヨリ一部應急勳賞セル第二十九師團及飛行

中隊三(我團二、機爆一)

三 内地ヨリ師團三、飛行中隊十八、偵察六、戰團五、及特ノ他

輕爆四、重爆三

然ルニ冀察側八十一日午後ニ至リ我方要求 支那軍ノ蘆溝橋附
近永定河左岸駐屯

協定後支那
電報ノ判斷

禁止、將來ニ關スル所要ノ保障、責任者ノ處罰、謝辭等ヲ受諾セルヲ以テ内地ヨリスル師團等ノ派遣ハ一時之ヲ見合セ僅カニ關東軍、朝鮮軍ノ各一部及航空兵團等ヲ派遣スルニ定ム但シ内地及朝鮮ヨリ派遣スル航空兵團ハ南滿洲ニ位置シ中央ノ直轄タラシム以上ノ如ク十一日支那側トノ交渉成立セルモ支那駐屯軍ハ冀察側ヲシテ今次ノ協定ヲ具現セシメシガ爲ニハ必要ニ應ジ兵力ヲ行使スルコトアルヲ豫期シ十二日所要ノ計畫ヲ謝立セリ

然ルニ七月十五日迄ニ離海線以北山西省境以東ノ地區ニ集結セル支那側兵力ハ平時兵力ヲ合シ約三十師ニ達シ又平津地方ニ於テハ十一日ノ協定以後ニ於テモ諸所ニ不祥事件續發セリ

是ニ於テ中央統帥部ハ左ノ如ク最後の通牒ノ交付及之ニ伴フ緊急處置ヲ爲スニ決ス

0637

斯ク事態ヲ此ノ儘ニ放任スルトキハ支那側ノ遷延策ニ致
サルル危険アルヲ以テ之ヲ防止シ且動員出兵ノ時期ヲ觀ラ
ラザル爲我ガ最小限ノ要求事項ノ履行セザルトキハ我ガ
軍ハ現地交渉ヲ打切り第二十九軍ヲ騰蘇ス之ガ爲期限満
了時期ニ所要ノ内地部隊ニ動員ヲ下令シ北支ニ派遣ス又
南京政府ニ對シテハ日本ハ飽ク迄現地解決ヲ圖リ他域ヲ
北支ニ限定スル意圖ナルヲ以テ南京政府ハ中央軍ヲ舊態
ニ復シ對日挑戰的行動ヲ中止シ且現地ノ解決ヲ妨害セザ
ルベキヲ要求

中央統帥部ハ七月十七日支那駐屯軍司令官ヲシテ宋哲元ニ
對シ期限附回答ヲ促サシムルト共ニ支那中央政府ニ對シ事
件解決ヲ妨害スルガ如キ行爲ヲ停止スベキコトヲ要求セリ
之ニ對シ宋哲元ハ十八日支那駐屯軍司令官ヲ訪問シテ遺憾
ノ意ヲ表シ十九日我ガ要求セル細目協定ヲ承認セリ
然レドモ此ノ際ニ於ケル支那中央政府ノ回答ハ誠意ノ認ム

0638

ベキモノナカリシヲ以テ我が中央統帥部ハ武力解決ノ止ムヲ
得ザルニ至ルベシト爲シ支那駐屯軍司令官ニ新任務ヲ附與シ
且南滿洲ニ待機セル臨時航空兵團ヲ支那駐屯軍司令官ノ轄下
ニ入ラシムルト共ニ内地師團ノ動員ノ邊ニ緊急動員セル第二
十師團ノ本動員並ニ之ニ伴フ部隊ノ動員及此等部隊ノ北京處
派遣ヲ實施スルヲ要スト判断シ之ガ準備ニ著手セリ
然ルニ其ノ後情勢稍々緩和 觀察團ノ事件責任者處分第三十七
セシツ以テ二十二日ニ至リ動員實施ハ之ヲ延期スルコトナ
レリ

第二節 郎坊事件後ノ情勢刻變

七月十九日ノ協定ニ基キ第三十七師ノ一部ハ北平附近ヨリ保
定方面ニ移動ヲ開始セルモ其ノ主力ハ依然固死ニ固執シ撤退
ノ模様ナク而シテ七月二十五日ニ至リ事件後我が軍ニ對シ能
戰的態度ヲ取ラザリシ第三十八師ニ依リ郎坊事件後發ルニ

0639

廣安門事件
ニ對スル軍
司令官ノ決
心

至レリ一駐屯軍司令官ハ部坊事件ノ發生ヨリ以テ爾來テ武力行
使ノ決意ヲ爲サズ依然平和ニ事件ヲ解決セント欲シ隱忍善處
スル所アリシガ翌二十六日廣安門事件起リ是ニ於テ駐屯
司令官ハ更ニ隱忍ヲ重スルハ將テ不買リ賣リノ任事遂行ヲ不
能ナラシムルノミカラズ皇軍ノ威信ヲ失墜スルニ至ルベシト
判斷シ平壤一帯ノ支那軍ヲ斷乎脅懾スルニ決シ二十七日行動
ヲ開始スルコトトセリ同日中央統帥部亦支那駐屯軍司令官ノ
決心ヲ是認シ且同軍ノ任務達成上必要ナル左ノ諸件ヲ處置ス
一 支那駐屯軍司令官ノ現任務 北支主要各地ヲ居留民ヲ保護シ
ノミヲ以テシテハ北支那ニ於ケル時局ノ拾收ヲ爲シ得ザル
ヲ以テ更ニ一層廣汎ナル新任務ヲ附與ス
二 支那駐屯軍現在ノ兵力ヲ以テシテハ緊急ノ處置ハ之ヲ講ジ
得ベキモ大ナル戰果ヲ收メシヲ爲シハ兵力不厚ナルヲ以テ
内地ヨリ三師團及之ニ伴フ部隊ヲ抽出シテ北支ニ派遣ス

平津地方
戰後ノ
中央統帥部
ノ
判斷

七月下旬支那陸軍一度行動ヲ開始スルヤ平津地方ノ第二十
九軍ヲ驅逐シ續イテ長辛店高地及天津附近ヲ確保シ平津地方
ノ支那軍及不良保安隊ヲ掃蕩シ主要都市ノ安定ヲ圖リ次期作
戰ヲ準備ス

八月二日中央統帥部ハ支那陸軍及敵軍ノ行動就ニ今後ノ戰
局就ニ斷シ左ノ如ク判斷セリ

一 第二次勦員主要部隊ノ天津附近到着豫定ノ概要

八月十日前後ニ於テ應急勦員二師團、十五乃至二十日頃迄

ニ一師團就ニ前記二師團ノ充足人馬天津附近ニ到着スベク

後方部隊等ノ全部ノ天津附近集結完了ハ八月末トナルベシ

ニ支那軍ノ行動ニ對スル判斷

萬福麟軍、馮石海軍等ノ餘軍約三萬ハ涿州、保定間ニ在リ

中央軍ハ保定、石家莊間ニ約六萬、石家莊、順德間ニ約三

萬北部河南省及二州附近瀾海沿線ニ約二十萬、徐州附近瀾

海沿線ニ約五萬、計約三十四萬集中セリ

0641

山東省ニハ高射砲ヲ主トスル若干ノ部隊濟南附近ニ配置セ
ル外未ダ大ナル部隊ノ侵入ナキガ如シ我ガ軍ニ擊退セラレ
タリ第二十九軍中約二萬ハ馮占海軍、馮占海軍等ニ攻撃セ
ラレ平漢沿線ニ退却シタルモノノ如ク又天津附近ニ在リシ
約一萬ハ馬廠天津南方附近ニ退却シタルモノノ如シ而シテ
此等支那軍ハ平漢沿線方面ニ於テハ一部ヲ以テ我方前進ツ
遲滯セシメ主力ヲ以テ中部河北省ニ於テ又津浦沿線方面ニ
於テハ滄州、德州附近ニ於テ相當頑強ナル抵抗ヲ爲スモノ
ト豫想セラレ之ガ爲隴海沿線ノ部隊ハ前方ニ増加セラルル
虞大ナリ

此等支那軍ハ我方軍力少ノ兵力ヲ以テ進スルカ又ハ緩ガ
軍ノ集中遲延スルガ如キ場合ニ於テハ我方後方ノ擾亂ヲ行
フト共ニ進ンデ攻勢ヲ取ルコトナキヲ保シ難シ

山東軍及察哈爾省內ニ在ル第二十九軍ノ第四百十三師ハ概

中立的態度ヲ保持スベク山西及綏遠軍亦一部ヲ省境附近ニ進
出セシムル等消極的對策ハ之ヲ謀ズベキモ進ンテ積極的行動
ニ出ツル公算少キモノト判斷セラル
空軍ハ消極的態度ヲ採リアルモ瀋滬、平漢沿線ノ主要飛行場
ニハ著々所要ノ準備ヲ進メアルヲ以テ中部河北省作戰ニ際シ
其ノ一部ノ參戰ヲ豫期セラル

三、今後ノ戰況推移ニ關スル判斷

支那駐屯軍ノ作戰地域ヲ概ネ保定―獨流線ノ線以北ト爲ス而
シテ支那側モ亦保定附近ニ於テハ眞面目ナル抵抗ヲ爲スベク
該線ニ進出センガ爲ニハ相當激烈ナル戰鬪ヲ豫期セザルベカ
ラズ支那駐屯軍司令官ハ平津地方ノ掃蕩ヲ行ヒツツ逐次到着
スル増加兵艦ヲ併セ適時上記ノ線ニ向ヒ前進スベク其ノ時
兵力區分等ハ今後ノ情勢ニ依リ決定セララルベシ

第二章 對支作戰計畫

第一節 中央統帥部ノ作戰計畫

0643

對支作戰計
素ノ大綱

中央統帥部ハ對支作戰ニ關シ作戰範圍ヲ成ルベク局地ニ限定シ
短時日ニ作戰ヲ終ルノ方針ノ下ニ事變前計畫準備スル所アリシ
ガ武力行使ニ決セル後七月二十九日左記ノ如ク對支作戰計畫ノ
具體的大綱ヲ策定セリ

一 作戰方針

平津地方ノ安寧ヲ圖ル

作戰地盤ハ寧ネ保定ト獨流衛ノ境以北ニ限定ス

狀況ニ依リ一擧ノ兵力ヲ以テ青島及上滄附近ニ作戰スルコト
アリ

二 兵隊ノ兵力編組及任務

一 平津地方 支那駐屯軍ヲシテ約四師團ヲ基幹トシ平津地方

ニ作戰ス

二 青島附近 概ネ一師團ヲ基幹トシ青島附近ヲ占領シテ主ト

シテ居留民ヲ保護ス

三 作戰指導ノ要領

陸海軍ノ
協定事項

1. 支那駐屯軍ヲ以テ平津地方ニ作戦セシム

2. 青島及上海附近ニ對スル作戦ハ状況止ムツ得ザル場合ニ

之ヲ行フ

3. 情勢一依リ最小限ノ兵力ヲ以テ平津地方ヲ領有シ持久シ

策ヌハコトアリ

4. 情勢ハ應ジ逐次所要ノ兵力ヲ動員シテ津浦ニ派遣スル如ク

準備ス

5. 別ニ所要ノ兵力ヲ中央直轄トシ情勢ノ變化ニ應ジ得ル如ク

準備ス

北支作戦ニ關スル陸海軍協定ハ七月十一日既ニ確定セラレタ

リ

其ノ大要左ノ如シ

北支作戦ニ關スル陸海軍協定

其ノ一 作戦指導方針

一、敵メ、作戦地域ヲ平津地方ニ限定シ中、南支ニハ主眼トシ

テ實力ヲ行使セズ

但シ此ムヲ得ザル場合ニ於テハ青島、上海附近ニ於テ居留

民ヲ保護ス

二海陸協同作戰

三本年秋實行中第三國ト事ヲ構フルコトハ極力之ヲ避ク

其ノ二 作戰任務ノ分擔

一、平津地方確保ノ爲鬪東軍及内帥ヨリ所要兵力ヲ平津地方ニ

派遣シ支那駐屯軍ヲ強化ス

右作戰ハ主トシテ陸軍之ニ當リ海軍ハ陸軍輸送補助ニ天

津方面ニ於テ陸軍作戰ニ協力ス

二、中、南支方面ニ對シテハ海軍主トシテ警戒ニ任ズ

三、前項方面ノ情況變化シ帝皇親衛民ノ保護ヲ要スル場合ニ於

テハ青島及上海附近ニ限リシ陸海軍所要兵力處同シテ之ニ

當ル

四、統率ニ關シテハ別ニ定ム

0646

其ノ三 兵力區分、輸送護衛

六 兵力區分

陸軍ハ左ノ如ク兵力ヲ派遣ス

イ 北支方面

關東軍ヨリ 混成約二旅團其ノ他所要ノ部隊

内地ヨリ 朝鮮ヨリ應急動員一師團及内地ヨリ動員

三師團其ノ他所要ノ部隊

ロ 青島及上海方面

所要ノ部隊ヲ配當スルモ其ノ兵力區分ハ北支方面等ノ

狀況ニ依リ決定ス

海軍ハ左ノ如ク兵力ヲ増派ス

イ 北支方面

第五艦隊第四水雷戰隊、本曾、多摩、巖島、長嶺、第

十一、第二十三驅逐隊、和床第二聯合航空隊、特別砲

戰隊二大隊

0647

口 中支及南支方面

第八戰隊、第一水雷戰隊、第一聯合航空隊、特別陸戰隊二大隊

二 輸送及護衛

ノ北支方面ニ對スル輸送ハ主力ハ鐵道ニ依リ（秦山經由）

一部ハ海陸ニ依ル（秦島上陸）

2. 青島、上海方面ヘノ輸送ハ海路ニ依ル但シ狀況ニ依リ一

部ノ急派ヲ考慮ス

輸送區分ハ狀況ニ依リ定ム

3. 海上護衛ハ第四戰隊、第二水雷戰隊、第二聯合航空隊及

第三艦隊ノ一部ヲ以テ之ニ充テ爾接護衛トシ朝スレバ直

接護衛トス

其ノ四、浦宿連絡

外征陸軍ノ中央部トノ通信連絡ハ必要ニ應ジ海軍ニ於テ中隊
援助ス

0648

附記

北支作戰ニ關スル陸海軍航空ニ關スル協定

一 北支方面ニ於ケル敵航空勢力ノ覆滅ハ主トシテ陸軍之ニ任ジ左ノ如キ場合海軍之ニ協力ス

ノ北支以外ノ方面ニ於ケル航空作戰ノ考慮サキトキニシテ陸軍方面緊要ナルトキ

2. 右以外ノ場合ト雖モ陸軍方面緊急ニシテ近海軍航空兵力ニ協力餘裕アル場合

二 中支及南支方面ニ於ケル敵航空勢力ノ覆滅ハ主トシテ海軍之ニ任ジ陸軍ハ自衛ノ爲ニスル航空作戰ニ任ズ

三 空軍輸送船隊ノ海上護衛並ニ上陸地到着前後海軍機ハ所要ニ應ジ空軍ノ敵ニ對シ之ヲ掩護ス

四 海軍部隊ノ上陸時及後軍飛行準備完了ニ至ル迄ノ間ニ於ケル陸軍ノ爲ノ空中勤務ハ之ヲ要スレバ海軍航空兵

力ヲ以テス

五 同一方面ニ在ル陸海軍航空部隊ノ任務ノ分擔協同ノ要

0649

領等ノ細項ハ更ニ出征部隊間ニ直接協定ス
六 使用兵力

陸軍

平津方面

航空兵團司令部

飛行團司令部

偵察八中隊

戰騎七中隊

輕爆四中隊

重爆五中隊

青島及北平方面

偵察二中隊

戰騎二中隊

海軍

北平方面

0650

第二聯合航空隊

第二十一航空隊

作戰ノ推移ニ依リ第二聯合航空隊ハ中支方面ニ轉戰

シ又狀況ニ依リ第二聯隊搭載機（水偵）ノ一部ヲ以

テ編組増勢ス

口中、南支方面

第一航空戰隊

第二航空戰隊

第一聯合航空隊

第二十二航空隊

第十二戰隊

又狀況ニ依リ第一、第二航空戰隊ノ飛行機モ上海方

面基地ニ揚陸ス

七、飛行場ノ使用區分竝ニ其ノ整備

ノ北支（關東州）方面

89

0651

海軍

作戰初頭第二聯合航空隊ハ周水子飛行場 大連西ノ北郊外ヲ 使用

ス爾後狀況ニ依リ一部ハ青島、滄口飛行場ヲ兼用ト共
用ス滄口飛行場ノ整備ハ海軍之ヲ擔任ス

陸軍

北支方面ニ於テハ陸軍ハ山海關、綏中及天津方面ノ飛
行場ヲ使用ス但シ重機隊ハ周水子ヲ使用スルコトアリ
山東方面ニ於テハ陸軍ハ當初ハ滄口飛行場ヲ兼用ト共

用シ爾後西方地區ニ飛行場ノ整備シ之ニ進出ス

周水子飛行場ノ整備ハ陸軍之ニ擔任ス

2 中支方面

イ 作戰初頭

公大 上海 東側 ハ陸海軍之ヲ共用シ新公園 上海 ハ陸軍之ヲ兼

頭ス

東漢離飛行場^{海上}完成セバ公大ノ海軍飛行機ハ東漢
離ニ移ル公大、新公園及東漢離飛行場ノ整備ハ海軍
軍之ヲ擔任ス

口頭 後

陸軍飛行隊専用飛行場（江灣^{海上}方面ト豫定ス）完
成セバ陸軍飛行隊ノ主力ハ之ニ移ル江灣方面ニ於
ケル飛行場ノ整備ハ陸海軍協同シテ行フ
海軍ハ尙太康^{海上}飛行場ヲ整備使用ス

狀況許ス限り遠海軍ハ速カニ龍蓋飛行場^{海上}東
南側ヲ

ハ燃料、爆彈等ノ補給

陸海軍獨自ニ補給ス

海軍航空部隊ノ空輸ニ際シ新義州、平壤、京城及大邱
ニ於テ中繼補給ヲ要スル場合ノ補給ハ陸軍之ヲ援助ス

0653

但シ平壤以外ニ於テ多數機ノ補給ヲ要スル場合ノ燃料
ハ海軍ニテ準備ス

陸軍航空部隊空輸ノ際濟州島ニ於テ中繼補給ヲ要スル
場合ハ海軍之ヲ援助ス此ノ場合ノ燃料ハ爲シ得レバ陸
軍ニテ準備ス

第二節 支那駐屯軍ノ作戰計畫

支那駐屯軍ハ七月十二日ノ情勢判斷ニ基キ交渉決裂スルニ至
ルコトアルヲ考慮シ七月十五日左ノ作戰計畫ヲ策定セリ

其ノ一方 針

一 軍ハ作戰行動ヲ開始スルニ至ラバ所在ノ支那第二十九軍
ヲ速カニ武力ヲ以テ脅徴ス而シテ先ツ北平郊外ノ敵ヲ永
定河以西ニ掃蕩スルヲ第一期トス

二 北平居留民ノ保護ニ關シテハ右作戰ト同時ニ平時計畫ト
關聯シテ兵力萬全ヲ策ス

三 第二期作戰ハ狀況ニ依ル而シテ現有兵力ヲ以テ保定一任

邱約五十軒ノ線、增加兵力ヲ以テ石家莊、德州ノ線ニ進
出シ中央軍トノ決戦ヲ豫期ス

其ノ二 指尊要領

七月二十日迄ニ各兵團ヲ集中スルト同時ニ第一期作戦ヲ準備ス
ル爲之ヲ展開スルコト左ノ如シ

獨立混成第十一旅團 主力高麗營、一部順義

獨立混成第一旅團 懷新

第二十師團 天寧、唐山、山海關ノ地區

其ノ三 會戰指導ノ大綱

第一期作戦ハ主トシテ北平西部ニ在ル第三十七師ヲ永定

河以南ニ掃蕩ス狀況ニ依リテハ南苑ニ在ル第三十八師ヲ

掃蕩ス

此ノ間第百三十二師ニ對シテハ第二十師團ヲ以テ置時之

ニ應シ得ルノ用意ニ在ラシメツツ作戦ヲ指導ス

二 航空部隊ノ主力ヲ以テ地上會戰ニ先ダチ爲二十九軍中最

毛桃戰的ナル邊三十七團ニ對シ攻撃威力ヲ集中ス之カ爲
 爆撃ハ西苑、八寶山、北苑、長辛店ニ指向シ狀況ニ依リ
 南苑ニ指向スルコトアリ
 第一團掃蕩作戦間航空隊ハ集結セル威力ヲ以テ地上作
 戦ニ協カス
 三、北平市街及萬壽山ニ對シテハ絕對ニ防禦ヲ行フコトナシ
 四、獨立混成第十一旅團及向該一旅團ハ北平ノ西北及西方地
 區ヲ永定河ノ線ニ向ヒ作戦ス
 此ノ際北平城內ニ對シテハ攻撃ヲ行フコトナク之ヲ要ス
 ル場合ニ在リテハ所要ノ兵力ヲ以テ監視ス
 五、支那陸軍歩兵旅團ノ主力ヲ以テ豐台附近ニ在リテ軍ノ企
 圖ニ從ヒ隨時八寶山北平西方ヲ占領シ得ルノ態勢ニ在ラシ
 シメ獨立混成第十一旅團第一旅團ト策應シ行動開始ツ
 軍ニ於テ指導ス此ノ場合南苑ニ對シ所要ノ監視ヲ行ヒ在

通井等隊ヲ派遣ス

狀況ニ依リ所要ノ兵力ヲ以テ八寶山ニ對シメ且成ルベ

ク糧台ノ補給基點ヲ掩護セシメツツ在通州駐隊ヲ遣テ

南苑ニ向フコトアリ

在通州支隊駐屯歩兵旅團ノ一部ハ適時之ヲ小松子（北京東方約六軒）

ニ遣出シテ該カニ務部長ノ指揮下ニ屬シ八寶山又ハ狀況

ニ依リ南苑ニ向ハシム

在通州支隊駐屯歩兵ノ一部ハ北平居留民保護ノ爲更ニ兵

力ヲ整スル聯合ハ城內強固ト爲力シ北平城內へ進行進入

セシムルコトアリ

六 第二十師團ハ主力ヲ鐵道ヲ以テ北平南方地區ニ輸送シ北

平郊外ノ驛驛點ニ逐次加入セシム

此ノ際成ルベク永濟河右岸ニ於テ敵ノ退路ヲ遮斷スル第

三 作戦ヤシム一部ノ兵力ヲ以テ第百三十二師ニ對スルノ

準備ヲ整ヘシムルモノトス

0657

37

七、軍ハ當初ヨリ支那駐屯歩兵旅團ノ約一六隊ヲ天津ニ於テ
豫備トシテ直轄シ主トシテ天津警備ニ當テシテ別ニ第二
十師團ノ來著ニ伴ヒ其ノ歩兵一聯隊ヲ天津ニ於テ駐屯
シラシム

其ノ四 補給及通信

一、兵站ハ遂當リ第一期掃蕩戰ニ應ズル諸準備ヲ完了セシムル
ヲ主眼トス之ガ爲兵站主帥ヲ天津ニ設ケ瀋州及鹽台ニ補給
基點ヲ設ケ半會戰分ノ車備品及一箇月分ノ糧秣ヲ集積ス
二、通信天津ヲ基點トシ平時ノ諸施設ヲ増強シテ有線通信ヲ行
ヒ直及兵團ノ有スル無線ニ依ル通信ヲ樹トス
三、軍司令部ハ第一期、第二期作戦間天津ニ位置ス會戰間瀋州
又ハ鹽台ニ戰區司令部ヲ進ムルコトアリ
右作戦計畫ハ總後方平ノ變更アリシモ方針ノ大要及第一期作
戦ハ計畫ノ如ク實施セラレタリ

0658